

柿園管理情報 第3号

令和6年5月29日
城端果樹協会
砺波農林振興センター

1 概況

本年の三社柿の開花初めは5月24日（前年より4日遅く、平年よりも1日早い）、満開は5月26日（前年よりも2日遅く、平年よりも1日早い）となりました。（大西標準木）
病害虫については、今のところ目立った発生は見られません。

2 防除について

- ・落花後は灰色かび病の発生が多くなりますので、フロンサイドSCを必ず散布してください。
- ・薬剤は散布ムラの無いよう、ていねいに十分量を散布（※1）してください。

※1：農薬散布時は周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等、十分注意してください。

散布時期	対象病害虫	散布薬剤	使用倍率	10a当り散布量	100リットル当り薬量
落花後 (6月6日頃)	落葉病・灰色かび病・炭そ病	フロンサイドSC (※2)	2,000倍	400 ^{リットル}	50ml

※2：

- ①フロンサイドSCにかぶれやすい方は、ストロビードライフロアブル（3,000倍、年3回以内）を使用してください。
- ②畦畔柿では、フロンサイドSCの代わりにトップジンM水和剤（1,000倍、年6回以内）を使用してください。
- ③クミテン等、10,000倍（10ml/水100リットル）の展着剤を加用してください。

カイガラムシ類は、防除適期が限られ、6月下旬～7月上旬頃に卵からふ化した直後の幼虫に防除効果が高く出ます。今後の予察状況を見ながら、次号の柿園管理情報で防除計画をお知らせいたします。

3 新梢管理について

5月下旬～7月下旬にかけて、適宜、発生した新梢や徒長枝の整理を行い、光や薬剤の通りを良くしてください。

- ・太枝の切り口から複数の新梢が発生している場合、やや斜立した中庸な新梢を側枝の更新枝として残し、他の新梢は切り取ってください。
- ・主幹部や、主枝、亜主枝基部の背面から発生した徒長枝を切り取ってください。

●農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

●脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。